

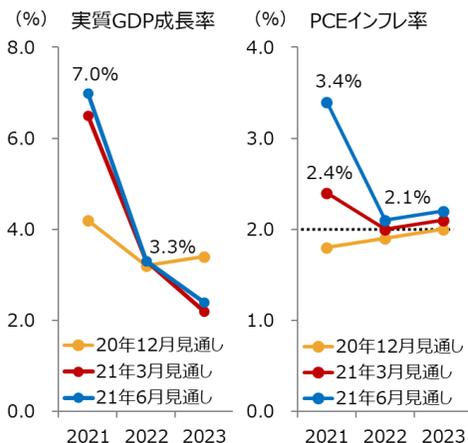
米国

金融政策動向（2021年6月）

23年に2回の利上げを示唆、テーパリング議論開始も近づく

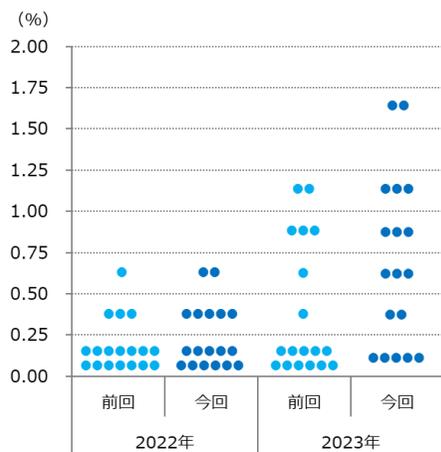
政策・経済センター
田中高大
03-6858-2717

1 FOMC参加者の経済見通し



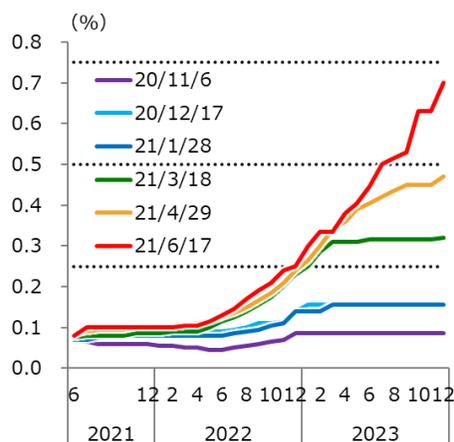
注：FOMC参加者の中央値。各委員の予測の集約であり、FOMC公式としての予測ではない。出所：FRB

2 FOMC参加者の政策金利見通し



注：上図の円は、各水準を適切であるとするFOMC参加者を表す。出所：FRB

3 市場の金利見通し



注：FOMC翌日の水準をFF金利先物価格から計算。出所：Bloombergより三菱総合研究所作成

4 FOMCを受けた市場の反応



注：直近は6月22日。出所：Bloombergより三菱総合研究所作成

評価ポイント

決定事項・経済見通し

- 6月15-16日に実施された連邦公開市場委員会（以下、FOMC）の結果、連邦準備制度理事会（以下、FRB）は、資産購入を現行ペースで継続すること、政策金利の誘導目標を0.00-0.25%に据え置くことを全会一致で決定した。
- パウエル議長の記者会見では、今回のFOMCを「テーパリングの議論開始のための議論」とするとともに、今後のFOMCで量的緩和継続目標の進展状況を評価すると述べ、本格的なテーパリング議論開始が近づいていることを示唆した。
- FOMC参加者の見通しでは、21年のGDP成長率が+7.0%と、前回+6.5%から上方修正された（図表1）。また、21年のインフレ率は+3.4%と、平均目標の2%を大きく上回ると予想するものの、22年以降は2%台で落ち着くと見ている。
- 政策金利見通しでは22年及び23年の利上げを見込む参加者数がともに増加（図表2）、23年の中央値は0.50-0.75%と、23年中に2回利上げが行われる可能性を示す結果となった（前回3月の中央値は0.00-0.25%）。

今後の注目点

- 米国経済の急回復を受けて、金融緩和縮小の前倒しの可能性は高まっている。今回のFOMC参加者の利上げ見通し（23年末までに2回）について、市場ではタカ派的に受け止める見方が強まり、市場（FF先物市場）が織り込む利上げ予想は、4月末時点では23年末までに1回であったが、直近で同2回まで上昇（図表3）、株価もFOMC後に急落した（図表4）。FRBは市場との対話に細心の注意を払うと明言しており、市場の動揺を抑えるべく、テーパリング開始や利上げ時期について、今後も市場に対して丁寧にメッセージを発していくとみられる。
- 先行きは、22年前半にテーパリング開始、23年に利上げを見込むが、労働市場の回復度合いとインフレ率に左右されるため注意が必要だ。FRBは、労働市場の回復の遅れを警戒する一方、足元のインフレは一時的なものであると強調しているが、供給制約や過剰貯蓄により需要が供給を超える状況が続く、インフレが構造的に続けば、金融緩和縮小の更なる前倒しの可能性が高まる。